

救援から帰岡の田中医師訴え

ピナトゥボ(フィリピン)避難民支援を



フィリピンのルソン島中央部にあるピナトゥボ火山が噴火、多数の死傷者を出して三月、岡山中植津に本部を置くアジア医師連絡協議会(A.M.D.A、菅波茂会長、メンバーの医師田中政安さん)は、現地でも救援活動を続けている同協議会フィリピンメンバーの田中医師

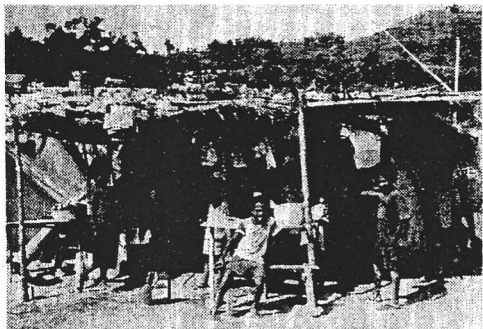


田中医師

援要請にこたえらるる。このほど、被災地を視察、帰国した田中さんは「被災者はキャンプ生活を余儀なくされ、今後長期改善される見通しはない。医療や生活指導の援助が必要で、人的・物的の支援に協力してほしい」と呼び掛けている。

田中さんが訪れたのは、ピナトゥボ火山の噴火で被害を受けた周辺。十一月一日から二週間、イラム、ヒラタカンの二カ所を診療行為をしたほか、カワグボトランを視察した。

【フィリピン政府の発表(九月三十日)によると】被災者数は百八十八万人、二十五万世帯。一時避難所で生活者は八百八十二カ所



生活を余儀なくされている被災者たち=フィリピン・スービック

きょう岡山で避難民調査報告

A.M.D.A.は、六日午後六時半から岡山市植津三一〇一、菅波内科医院で「アジア・ナイト・パーティ」を開き、田中さんの「ピナトゥボ避難民調査報告」を行なった。参加費千八百円。岡パーティーやピナトゥボ被災支援に関する問い合わせは同医院の田中さん(0868267676)へ。

一部のキャンプでは、政府などが井戸を掘り始めた。料理などの燃料にはまきが使われているが、背の低い人が散在しているだけで、長期的に住民が密集する。その取得さえ難しく

今もテント生活 大切な衛生指導

多くのボランティアが必要

ランズがとれていないのは難しいだろう。【後の課題】医師、薬の充実▽居住地の確保▽下痢、麻疹(はしか)、肺衛生教育の徹底▽。麻疹の流行は、キャンプの密集した生活のため、伝染病の問題や住民の労働意欲が低下してしまう。心配なく、今後の不安が大ふたをした簡単なもの。そき。

田中さんは「トイレ作りや今の世話、家族構成といった個々の家族のチェックや衛生指導をするボランティアなど、医師だけでなく多くの人の援助が必要」と訴えている。

で五十二万人のぼる。しかし、この数字は政府機関によってもデータの

違いがあり、民間団体関係者の発表とも異なる」と田中さんは、次のように報告している。

【被災者の生活】各家族ともとも、洗濯する習慣がつかうラスにスカーフ、

また、犠牲者の多くを占めるのは、先民族のアイヌ。狩猟農耕民族でもあるが、

彼らは噴火前は高地に住んでいたが、今回の災害で平地での生活を余儀なくさ

れ、環境の急激な変化する。環境の急激な変化する。環境の急激な変化する。

生活は強いられている。そのなかで、

服装は、男性が短パン、Tシャツ。女性は、Tシャツかブラウスにスカート。

あまりない、という人もいたが、水不足も重なって洗

濯はできていなかった。【健康状態】緊急の処置

が必要なる患者は見られなかった。しかし、缶詰などの非常用簡易食が主食業

でも、トイレの無い世帯も多かった。【政府の計画】政府は、一部地域で四五百立方の細

と展機具、作物の苗を与え、計画をしているが、すぐ

の家族が配布与えられ、また、政府の与え

る遊休地は農に適さない。【A.M.D.A.は、保健医療を

通してアジアの発展を図るため、一九八四年、アジア三カ国の医師関係者ら結